参加記

SfN Neuroscience 2018 に参加して

東京大学大学院理学系研究科物理学専攻
博士課程 3 年 髙木 優

2018 年 11 月 3 日から 7 日にかけて、米国 San Diego にて Society for Neuroscience の annual meeting (Neuroscience 2018) が開催されました。私は JNS-SfN Exchange Travel Award の受賞者に選考され、本大会に初めて参加する機会をいただきました。日本神経科学学会および選考委員の先生方に心より御礼申し上げます。

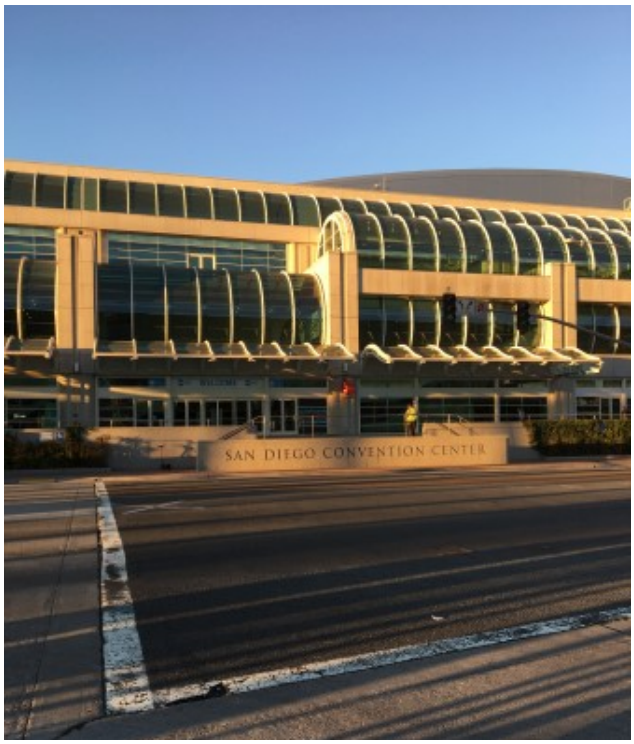
本大会には私の他に数十名の International Fellow が参加していました。International Fellow は日本神経科学学会をはじめ、Latin American Training Program や International Brain Research Organization による選考で旅費・参加費の支援を受けて海外から渡航してきた若手研究者たちのことで、学会では fellow を対象とした特別な企画が 2 つ用意されていました。

1 つ目は初日の朝に行われた International Fellows Orientation というもので、これから始まる学会を最大限有益に活用するためのオリエンテーションが行われました。まずは各参加者の簡単な自己紹介が行われ、続いて司会の先生方 (ひとりは PI、もうひとりは独立予定のポスドクの方でした) から様々な助言をしていただきました。特に強調されたのがエレベータートークで、司会の先生方による簡単な模擬実演のあと、参加者同士が実際に2人組を作ってやってみるという流れになりました。普段の学会ではどうしても同じ国の人同士で固まってしまうこともあるかと思いますが、そのような壁を取り払っていろいろな文化の人と気軽に話せるため、とても刺激的で楽しかったです。他にも、学会中に行われるセッションやソーシャルイベントの種類についての紹介や、それぞれに参加する際の留意点 (例えば、ポスター会場ではたくさん歩くことになるので歩きやすい靴を履くといいことなど) などについて教えていただきました。

International Fellow 対象の 2 つ目の企画は International Fellows Poster Session というもので、fellow 達が本番で発表するポスターを初日の夕方に集めた特別なセッションでした。本番と違い発表の数も少ないので、少し遠い分野の話も突っ込んで聞くことができる雰囲気になっていました。特に、あまりなじみのなかったモデル生物を使った研究の話を聞くことができたのは貴重な体験になりました。

私の発表は、ショウジョウバエ幼虫を用いた行動選択の神経回路メカニズムを、発生学的なアプローチを取り入れて明らかにしようとする試みに関するものでした。いろいろな分野の視点を取り入れた研究の場合は特にそうだと思うのですが、SfN のポスター発表ではどのセッションに出すかが非常に重要だと痛感しました。自分の発表に興味を持ってくれる可能性のある人が集まるセッションから外れてしまうと、会場では物理的に大きな距離ができてしまうことがあり、なかなか人が来てくれないということもあるかもしれません。私の場合も同時並行で行われているセッションで自分に近い研究がたくさん発表されていたのですが、ちょっと場所が離れてしまっていたのは残念でした。反面、わざわざ遠くから自分の発表を聞きに来てくれる人が何人かいたのはとても嬉しかったです。

ポスターセッションでの収穫として、論文を読んで知っていてもなかなか会う機会のなかった研究者の方々と直接お話しできたということが挙げられます。あらかじめ学会公式アプリでポスターの場所を調べておき、ある程度空いている時を見計らって話しかければ、長いこと独り占めし



コンベンションセンターの外観

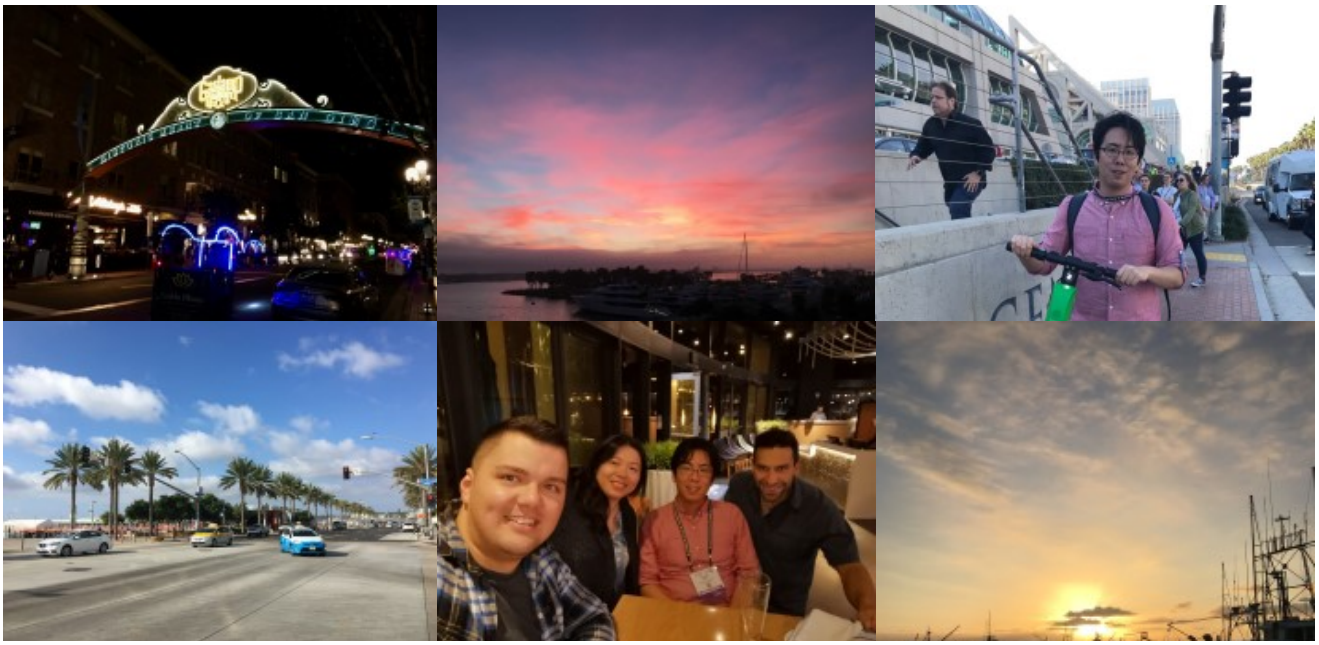
10 February 2019 Consecutive Number 217

てお話しすることができます。「あなたの論文を読んだ・研究が好きだ」ということはできるだけ直接伝えた方が相手も嬉しいと思いますし、関連する情報や未発表のプロジェクトについても聞けたりします。これからも学会に発表する際にはある程度「予習」して臨みたいと思いました。

San Diego は毎日晴れて暖かく、学会期間中はネームプレートを提げた人が町中に溢れていました。街中の移動手段として大流行していたのが、BIRD や Lime といったシェア型の電動キックボードです。これはスマホにアプリを事前にインストールしておき、乗りたいキックボードのバーコードをカメラでスキャンすることで時間料金制で公道を乗り回すことができるというものです。停めるところは基本的に自由なので、好きなところで乗り捨てることができます。町中いたるところで見つけられ、料金も安く、操作は簡単、スピードも出るとあってとても快適でした。学会会場で販売される飲み物・食べ物はかなり割高なのですが、このような電動キックボードを使ってちょっと離れたサンドウィッチ屋さんなどに出かければ安くて美味しい食事を気軽に食べにいけます。

全体として、研究もそれ以外もとても充実した学会になったと思います。今回得られた経験や情報を、今後の私の研究やキャリアに活用したいと思います。最後になりますが、本 Travel Award の企画・選考に携わった関係者の方々に改めて感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。

10 February 2019 Consecutive Number 217



上段：(左) Gaslamp Quarter 入口。カフェやバーが多く賑やかな地区。(中) San Diego の夕暮れ。(右) ライドシェア電動キックボード (Lime) に乗る著者。下段：(左) San Diego の一景。とにかく天気が良かったです。(中) ショウジョウバエ神経科学仲間での飲み会。左から 2 番目の方は Assistant professor で、それ以外は大学院生。(右) San Diego の夕暮れ。